



注意事項



- 18歳以上(高校生を除く)の生徒は、本人が保護者の地位を兼ねる(保護者を必要としない)事が出来ます。尚、18歳未満の既婚の生徒は、一般的な成年擬制の規定(民法第753条)に準じて、本人が保護者の地位を兼ねます。
- 無断欠席が3ヶ月続いた場合、除籍・放塾処分とします。

民間文教施設“栗谷塾”は、私の知る限り、過去に前例の無い特異な塾です。私の経験上、特に理解していただけないのが、**[勉強]**の意味と**[謝礼]制**を採用する私の気持ちです。よく見て、よく聞いてください。

- 入塾時の状況もその後の進歩・成長の仕方も、一人一人皆違います。ですから、私の指導・対応の仕方も、一人一人皆違います。同じ基準を画一的に当て嵌める事はしません。
- 私の過去の指導経験から言って、ほぼ全ての生徒は、特に初めの内、私の下を離れると、価値観が自分の周りとは違い過ぎる為、ここでの自分を忘れてしまいます。私の前で出せていた**[学力]**を出せなくなります。ここでの自分を信じてください。
- この塾に合わない人は自分から出ていきます。ですから、ここに居る仲間を信じてください。
- **[勉強]**と「遊び」を区別出来ない軽率な人から「遊んでいるだけの塾」と揶揄される時が、栗谷塾が一番好調な時です。

民間文教施設

“栗谷塾”の概要



[自信]を持てれば、**[勉強]**が出来る！

[勉強]が出来れば、**[学力]**が伸びる！

[学力]が伸びれば、**[意志]**が分かる！

その**[意志]**から出る**[恩]**によって結ばれた**[信頼関係]**の実現を目指す！

2017年06月30日(金)

民間文教施設“栗谷塾”の理念

民間文教施設“栗谷塾”は、一つの希望の実現を期して作られました。
その希望とは、

**主体的な[意志]を持つ人達による、
互いの[意志]に対する[信頼関係]の実現**

と云う希望です。

[学力]が伸びるのは、栗谷塾では、希望や目標ではなく、当たり前
の事です。

そして、この希望が実現に向かう時、生徒一人一人は次のような成長
過程を辿る事になります。

[自信]→[勉強]→[学力]→[意志]→[恩]→[信頼関係]

これらの語に付いている[]は、「私(栗谷 聡)が言っている意味で
の」と云う事を示しており、各語の意味は、概ね次の通りです。

[自信] 自分の心・気持ち・考え・行いを恥じず、蔑まず、誇れる自己
信頼。自分を信じる事。自尊心。自己肯定。Self-esteem。



[勉強] 自分が前向きな姿勢でしたい事を頑張る事。自分が**[学力]**
を発揮したい事を頑張る事。

民間文教施設“栗谷塾(栗谷義塾)”の学費

栗谷義塾は本来、**[謝礼]制**の塾ですが、過去の栗谷塾の経験を踏ま
え、保護者の皆様に**[謝礼]制**の考え方に慣れていただく為に、入塾
後最低6ヶ月間(講演会24回分)は、金銭の価値を講演会出席の価
値で置き換える事が出来る**[変則授業料]制**を導入しています。
また、元々入塾金は頂いていませんでしたが、栗谷塾の特殊な指導
の価値を認識していただく為に、入塾金も導入しました。
金額は以下の通りです。

入塾金：4万円

月額授業料(授業コマ数不問、後払い)：4万円

- ただし、毎週土曜日に行う講演会にご出席頂く事の価値を重
視して、保護者(18歳以上の方はご本人)のご出席1回につき
1万円を月額授業料から減額させていただきます。

[変則授業料]制から**[謝礼]制**への転換は、入塾時にご登録頂いた
保護者の方が、毎週土曜日に行う講演会に24回ご出席下さった時点
以降、いつでも可能です。

[謝礼]制の詳細については、当該ページをご覧ください。

栗谷塾塾は、私と塾生が協働して行う一種のシンクタンク事業です。
ですから、学費の取り決めは有りません。

[記事]執筆^{しゅっぴつ}は、「栗谷塾^{りっく}」では業務として行う事で、それに対する指導も適宜行いますが、「栗谷義塾^{りっく}」でも授業の核として行います。「栗谷義塾^{りっく}」で行う[記事]執筆^{しゅっぴつ}は、これまで[レポート]学習と呼んでいた授業の言わば発展形です。これも、[対話]と[看護^{みまもり}]の場合と同じ指導方針で行います。特に、口頭の[対話]で上手く自分の思いを伝えられなかったり、まだ伝え足りなかったりする生徒にとっては、“紙上対話”になる事も有ります。

『栗谷塾庭訓^{ていきん}』は、ありとあらゆる[勉強]に通じる基礎中の基礎と言える事柄を教える教科書です。

現在作成中ですが、内容は、私が普段から繰り返し話している事柄で、「見る事、聞く事」と「単位(ユニット=1)」の二つだけにする予定です。私が栗谷塾の生徒達に意識的に、教えるつもりで教える事柄はこれだけです。

私の指導をきちんと吸収していく生徒は、これ以外の事柄は全て自分で調べ考える事が出来る人物になります。

★義塾での授業に関する注意事項(詳細は当該ページへ)

学校の授業内容は学校の授業を聞くだけで十分理解してこられるだけの[学力]を発揮出来るようになるのが栗谷義塾の授業ですが、それを確認する為に、毎週学校のノート等を持参してもらっています。[記事]は、学校等で誤用されるのを防ぐ為、専用の用紙に書いてもらっています。3ヶ月に最低1本の執筆が必須です。

↓

[学力] 自ら学び、自ら考え、主体的に判断し行動する力。

↓

[意志] 本質的に「自分自身」と呼べる存在。自分自身を方向付ける実体。

↓

[恩^{ちな}] 因^{たよ}む心。相手と頼^{ささ}り合い支^{かか}え合う意識で関^{つな}わろう繋^{つな}がろうとする心。

↓

[信頼関係] 相手が動機・意向において(結果・能力においてではなく)自分を裏切らない事を信じ合える関係。

この成長過程は、最初の[自信]の段階をきちんと踏む事が出来れば、自然に次の段階に進んでいく物なので、次のように言う事が出来ます。

[自信]を持てれば、[勉強]が出来る！
[勉強]が出来れば、[学力]が伸びる！
[学力]が伸びれば、[意志]が分かる！
その[意志]から出る[恩]によって結ばれた
[信頼関係]の実現を目指す！

これが「民間文教施設“栗谷塾”の理念」です。

栗谷塾では全ての事にこの理念が通底^{つうてい}しており、この理念こそが栗谷塾を本質において特徴付けており、この理念が極めて重要^{きわ}です。



民間文教施設“栗谷塾”の構成



民間文教施設“栗谷塾”は、二つの部門から構成されています。教育部門である「栗谷義塾」と文化部門である「栗谷熟塾」です。両部門を比較しながら簡潔に言い表すと、次のように言えます。

教育部門「栗谷義塾」

- 従来の栗谷塾の継続
- 入門段階の生徒達が【勉強】【学力】を身に着ける学問所
- 私が保護者からの【謝礼】金等の義捐金を頂いて経営

文化部門「栗谷熟塾」

- 学齢期を終えた生徒達も塾に残れるようにした新機軸
- 成熟段階の生徒達が【勉強】【学力】を披露するシンクタンク
- 私と生徒達が広告掲載料等の報奨金を頂いて経営

生徒達は、所属部門は違っても、皆で同じ机を囲み、同じ時間と空間を共有します。これは、私が民間文教施設の案を練っていた頃に、熟塾生と義塾生とが別れ別れになってしまう場合を寂しそうに語る年長の生徒の様子を見て、決めた物です。

今の所、栗谷熟塾の生徒は居ないので、熟塾の生徒が誕生する時に義塾で培った【勉強】【学力】を思う存分披露出来るように、私一人で情報メディアサイトの経営を軌道に乗せるべく尽力しています。



民間文教施設“栗谷塾”の授業・指導



民間文教施設“栗谷塾”の授業・指導は、「民間文教施設“栗谷塾”の理念」を実現する授業で、次の三つを柱にしています。

みまもり

• 考えさせる【対話】と【看護】

しゅ びつ

• 【記事】執筆

てい きん

• 『栗谷塾庭訓』 ※現在鋭意作成中です！

考えさせる【対話】は、生徒自身に思考力や理解力、つまり、考える力を培う対話、そして、生徒からその力を引き出す対話です。

そして、【看護】は、【対話】と共に、生徒一人一人を、特に、生徒一人一人の心の様子を知り、受け止め、こちらから余計な手を出さず、生徒自身が自分らしく伸び伸びと全力で成長していけるように、よく見て（見て）、守る（護る）事を意味しています。

生徒達は、【対話】を通して、自分自身を見詰め直し、自分自身を正當に評価して、自分を成長させていくのと同時に、私の【看護】の仕方を見て学び、それを自分に生かしたり、互いを成長させ合う為に生かしたりするようにもなります。